

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	せとだにあわやまおくせん 世戸谷栗山奥線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	三好市(旧山城町)																	
事業概要	【事業目的】 当林道は、三好市山城町栗山の林道栗山線から三好市山城町栗山の林道塩塚栗山線へと連絡する森林基幹道である。当林道の開設により森林整備の効率化や合理的な森林施業に資するとともに、国土保全等の公益的機能を有する森林の適正な管理や保全を推進する基幹的な林道である。 また、平成30年7月の豪雨災害により、集落が一時孤立状態となったことから、災害時の迂回路の役割を期待されており、地域にとっても非常に重要な路線である。																			
	【事業内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 20%;">562ha</td> <td style="width: 50%;">[人工林面積:473ha (84%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>13戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>3.5～3.6m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>10,540m</td> <td>(うち令和6年度末の供用予定延長 3,826m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,160,000千円</td> <td>(うち令和6年度末の実施予定事業費 371,900千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>平成27年度～令和21年度</td> <td>(25年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	562ha	[人工林面積:473ha (84%)]	受益戸数(森林所有者数)	13戸		幅員	3.5～3.6m		計画延長	10,540m	(うち令和6年度末の供用予定延長 3,826m)	総事業費	1,160,000千円	(うち令和6年度末の実施予定事業費 371,900千円)	事業予定期間	平成27年度～令和21年度
利用区域面積	562ha	[人工林面積:473ha (84%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	13戸																			
幅員	3.5～3.6m																			
計画延長	10,540m	(うち令和6年度末の供用予定延長 3,826m)																		
総事業費	1,160,000千円	(うち令和6年度末の実施予定事業費 371,900千円)																		
事業予定期間	平成27年度～令和21年度	(25年間)																		
評価	【事業の進捗状況】 当路線は、平成27年度に全体計画調査を実施し、翌年度からは起点側(栗山奥工区)と終点側(世戸谷工区)の両工区で工事を開始した。平成30年7月豪雨による、県道及び林道の被災により、当該工事を令和4年度まで一時休止していたが、令和5年度から工事を再開し、令和6年度は2工区での工事を進めており、さらに令和7年度からは、新たな工区に着手し、事業進捗の推進を図る。 進捗状況は、起点側(栗山奥工区)で3,551m、終点側(世戸谷工区)で275mの計3,826mが供用を開始している。 <div style="text-align: right;">[進捗率:36.3%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 当該路線の沿線では、作業路と合わせた路網整備により、計画的な森林整備が実施されている。今後も搬出間伐をはじめとした森林整備が実施される予定である。																			
評価項目	【社会経済情勢の変化】 本県は県土の約76%を森林が占め、その内スギ・ヒノキなどの人工林の割合は約6割を占めており、森林資源量はこの40年間で約3倍にまで増加し、その大部分が利用可能な状態まで成長している。 利用期を迎えた豊富な森林資源を活用するとともに、カーボンニュートラルにも資する森林循環(伐って・使って・植えて・育てる)を進め、林業・木材産業の成長産業化を図るためには、いかに木材を安定的に生産・供給できるかが課題となっていることから、高性能林業機械の導入に対応した林内路網の核となる林道の整備は特に重要となっている。																			
	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																			
評価項目	【費用対効果の分析】 供用開始した区域を利用して、これまでに延べ39haの森林整備を実施している。今後は、事業の進捗により、さらに森林整備が進んでいく見込みである。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 2.05 (国の採択基準は1.0以上)</div>																			
	【受益者・関係機関の意向】 当路線により、地域内のアクセスが容易となり(到達時間が、92分短縮)労働条件の改善が図られ、国土保全・保健休養等、公益的機能の発揮及び強化に向けた、森林の適正な整備、保全を推進する基幹的な林道として三好市や地元関係者等から早期完成を強く要望されている。																			
【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																				